

富士特別支援学校富士宮分校 令和8年度 第1回 学校運営協議会
【報 告】
令和8年5月25日(月) 9:00～12:00

1 学校運営協議会委員 (敬称略)

山元 薫	(やまもと かおる)	静岡大学教授
佐野 建一郎	(さの けんいちろう)	富士宮市社会福祉協議会事務局次長
関澤 新一	(せきざわ しんいち)	株式会社大一セラム 代表取締役
竹山 幸男	(たけやま ゆきお)	琴平区長
小谷 和之	(こや かずゆき)	静岡県立富士宮北高等学校長
小宮 広美	(こみや ひろみ)	令和8年度PTA会長

【教職員】

狩野見 知穂子	(かのみ ちほこ)	校長
若松 唯晃	(わかまつ ただあき)	教頭
村松 昇	(むらまつ のぼる)	高等部主事
田中 善明	(たなか よしあき)	教務主任

2 次第

- (1) 開会 進行 (教頭)
- (2) 校長あいさつ (校長)
- (3) 任命状交付 (校長)
- (4) 自己紹介
- (5) 学校運営協議会会長の専任
- (6) 令和8年度学校経営計画について (校長・教頭)
- (7) 校内参観
・道徳(1・3年)、数学(2年)
- (8) 議事 (会長)
 - ①学校経営計画の承認
 - ②【協議】「地域とともに創る学校」に向けて
- (9) コンプライアンス委員会 (教頭)
- (10) 閉会

○校長あいさつ

6月の4校合同体育祭への参加を通じた地域連携に感謝する。また、発信を通じて障害理解や共生社会を実現していきたい。運営協議会の皆様と協議を重ね、地域と共に歩む学校づくりへ向かっていきたい。

○任命状の交付 ～各委員に校長より交付～

○自己紹介



○学校運営協議会会長 副会長の選任
会 長 山元 薫 様

○学校経営計画

校長)富士・富士宮地区の 3 校(本校・富士宮分校・富士東分校)を「富士特グループ」と捉えたビジョンを提示し、「ウェルビーイング」の視点を取り入れ、地域とつながる学校づくりを目指す。

教頭)共育目標具現化の3つの柱について本年度の取組を説明。

○議事(進行:山元会長)

【学校経営計画について】

※各委員からの主な意見・感想

佐野様) 先生方の多忙感解消には地域や PTA の協力も不可欠。立派な計画であり、働きやすい環境の実現を期待する。

関澤様) 計画が年々ブラッシュアップされている。企業の視点からは、学力以上に「壁にぶつかった時の対処法」を 3 年間で学ぶことが社会進出後の強みになると感じる。

小谷様) 「富士特グループ」としての本校との連携についても理解を深めたい。北高の運営協議会委員との交流の場も検討したい。

竹山様) 生徒が地域行事(防災訓練等)に積極的に参加し、高齢者と触れ合うことでお互いに元気が生まれる好循環ができています。継続を願う。

小宮様) 先生方の熱意を強く感じる。地域との連携は、生徒が学校以外の多様な世界を知る貴重な機会になる。

山元様) 北高との共生・共育が飛躍的に進んでいる。知的障害教育としての専門性を堅持しつつ、次の学習指導要領を見据え、この分校が地域でどのようなアイデンティティを築くか、非常に重要な時期である。



○協議「地域とともに創る学校」に向けて

※各委員からの主な意見・感想

関澤様) 学校の素晴らしさや生徒の成長が、親や中学校の先生に十分に認知されていない。この地域は特別支援教育への受け入れ障壁がまだ高いと感じるため、戦略的な広報が必要である。また、企業実習は採用に直結させずとも、教育環境として受け入れの裾野を広げる努力をしたい。

佐野様) 通常級と支援級のためのハードルが保護者の中で非常に高い。子どもたちが成長する中で、どちらが適切な教育を受けられるかという視点で、その垣根を外してあげられる方策を一緒に考えていきたい。

小宮様) 特別支援学校か通信制高校かという選択肢の中で悩む保護者は多い。小学校の段階から正しい情報を得られる環境作りが重要である。また、北高との交流を「(障害を見られるのが)恥ずかしい」と感じてしまう保護者の心理にも寄り添い、交流が当たり前の楽しさとして捉えられるような発信を期待する。

小谷様) 学校側が伝えたい情報だけでなく、保護者の悩みを吸収して発信する「広報」の視点が必要。公立高校が連携して地域と密接につながり、壁を取り払っていく取り組みを強化したい。

竹山様) 一律の教育ではなく、個々の特性を育てる教育をさらにアピールすべき。生徒が地域の寄り合いや行事に参加し、高齢者と触れ合うことは、お互いに元気をもらえる「win-win」の関係になる。

校 長) 北高との合同行事(体育祭等)は、学校の印象を大きく変える起爆剤になると期待している。今後は中学校向けの高校説明会においても、通常の高校と同じ場で分校の紹介ができるような仕組み作りを提案していきたい。

山元様) インクルーシブ教育の流れの中で、15 歳での進路選択は非常に重要。本人が幸せを感じられる生き方をどうプロデュースするか、社会全体で支え合う「ウェルビーイング」の視点を持ち、地域で分校のアイデンティティを確立していく時期に来ている。



○コンプライアンスについて(教頭)

*教頭より、今年度の不祥事根絶取組計画について説明。

山元様) AI の活用は合理的配慮の視点からも重要。一方で、生徒の画像管理やセキュリティなど、日進月歩の技術に対する教職員のアップデートと、慎重かつ積極的な活用ルール作りを検討してほしい。

○閉会あいさつ

多くの貴重な意見を全教職員で共有し、これからの学校経営に還元していく。次回、11月10日に第2回を開催する。

表現方法や言葉等で正確ではないところ、また発言内容を一部解釈し、変換した表現になっている部分もあります。

御理解御了承いただきますようお願い申し上げます。